



● 高校生地域創生プロジェクト

高校生の視点でまちの魅力を探る



3日間の探究の成果を発表する高校生たち（旧加悦町役場庁舎にて）

7/31 大阪府寝屋川市にある香里ヌヴェール学院高等学校等の「高校生地域創生

● 「聞き書き甲子園」地域報告会 in 与謝野

高校生たちが名人から学ぶ

8/9 全国の高校生が、森や川、海と共に生きる“名人”たちの知恵や生き方を取材し、記録・発信するプロジェクト「聞き書き甲子園」。昨年度、京都府・大阪府・愛知県など5府県から高校生7人が、与謝野町内で農業、織物、狩猟、酒造りに携わる7人の名人を取材しました。本年度は、その成果を共有する「地域報告会 in 与謝野」が開催され、高校生と名人たち各5人が再び顔を合わせ、取材時の印象的なエピソードや、学んだことを語り合いました。

大阪府内の高校に通う2年生の小島笙子さんは、ゆかたや帯といった織物に関心を持ち、藤織の名人・小西暢子さん（こにし のぶこ）を取材しました。数



地域報告会に参加した高校生と名人の皆さん

プロジェクト（探究学習）」の現地演習および成果発表が、与謝野町内で行われました。この取り組みは、令和6年4月に同校と本町が締結した「官学連携に関する協定書」に基づき実施されたもので、昨年に続き2回目となります。

7月28日から町内に滞在した生徒たちは、町内の企業や観光施設、宮津天橋高校加悦谷学舎などを訪問し、与謝野町の地域資源や魅力について探究しました。そして7月31日には、10グループが事前学習や現地での体験を通じて深めた探究内容（体験プログラム、新商品開発、イベント開催など）を発表。発表後には、参加した生徒全員に「与謝野町 PR 特使」の委嘱が行われ、充実した表情で4日間の活動を締めくくりました。



かや山の家で開催された「地域報告会 in 与謝野」。山添町長の進行で、高校生と名人たちは取材のエピソードなどを笑顔で振り返りました。

ある工程の中でも、小島さんは炊き上がった藤の皮を川の水で洗い、いねいにすすぐ「藤こき」を体験。「ほとんどの工程が手作業で行われており、過酷で大変な作業だと感じました」と振り返ります。そんな中、小西さんの「手作業が好きだからやっているんです」という言葉が、小島さんの心に強く響いたといいます。取材を終えて、「今は進路を考えている時期ですが、将来は自分が本当に好きなことを見つけて、それを仕事にしたいという気持ちが一層強くなりました」と語ってくれました。

高校生たちは、自然と共に暮らす名人の姿から、「働くことの意味」「受け継がれる技術」「地域に根ざす生き方」など、多くの学びを得たと発表。名人と高校生の対話を通じて、地域の魅力と知恵の再発見がなされる機会となりました。

2025 全日本自転車競技選手権大会
ジュニアロードレース

男子 U17 出場 6/28～29 南丹市（京都府）

くさかべ せい
日下部 惺さん（橋立中3年）



小学校3年生のときに漫画「弱虫ペダル」を見て、ロードレースを始めた日下部さん。2年ぶりとなる全日本選手権大会では、終盤、前方でレースを進めるも入賞とはなりませんでしたが、「高校生が多く、レベルが高いレースで、自分の走りができてうれしかった」と、大会を振り返ります。今後については「世界で活躍できる選手になって、日本でも名前を知られるようにになりたい」と、目標を語ってくれました。

第74回近畿中学校総合体育大会 軟式野球の部

出場 8/7～9 HPL ベースボールパーク（滋賀県）

江陽中学校 野球部



近畿大会の出場報告に訪れた江陽中学校野球部の皆さん

「どこよりも長い夏に」を合言葉に、練習に励んできた野球部の皆さん。丹後ブロック大会で優勝を果たし、丹後代表として挑んだ京都府大会では、1回戦・準決勝ともに投打がかみ合い勝利。決勝では福知山市の南陵中学校に敗れましたが、堂々の準優勝で3度目となる近畿大会出場を決めました。

支えてくれた人たちに、プレーで感謝を伝えたい——。そんな思いを胸に、一戦必勝で臨んだ近畿大会。初戦の彦根西中学校（滋賀県）との試合は、大きく点差をつけられる展開に。終盤に追い上げを見せるも、惜しくも10対11で敗れました。主将の石田真己さん（いしだ まさき）（3年）は、

● スポーツ・芸術で活躍するよさの人たち2025 Vol.02 —
挑んだ中学生たちに
全国・近畿大会に
スポーツや芸術など、さまざまな分野で活躍する「よさの人」たち。今月号では、個人で努力を重ね、全国・近畿大会に出場した日下部さんと茂籠さんの活躍、また、丹後ブロック大会、京都府大会を勝ち抜き、17年ぶりに近畿大会への出場を果たした江陽中学校野球部の快挙をお届けします。

「中盤、点差が開いて苦しい展開だったが、みんなで声を掛け合い、1点ずつ返すことができた」と大会を振り返ります。そして「2年半、一緒に戦ってくれた仲間との時間は宝物。後輩たちには、近畿を勝ち抜き全国に行けるようなチームになってほしい」と、仲間への感謝と後輩たちへのエールを語ってくれました。

第74回近畿中学校総合体育大会 水泳競技の部

女子自由形（100m、200m）出場

8/7～8 インフロニア草津アクアティクスセンター（滋賀県）

もろ ここみ
茂籠 心美さん（江陽中2年）



物心つく前から水泳を始めた茂籠さんは、中学校ではバスケットボール部に所属しながら、水泳競技を続けてきました。京都府大会で入賞を果たし出場した近畿大会は、大きな声援に緊張しながらも、「仲間と声を掛け合い、全力で泳ぎ切ることができた」と振り返ります。今後については「日々の練習や自宅でのトレーニングを重ね、トップ争いに加われるよう頑張りたい」と、目標を語ってくれました。